

【米田主宰の俳句】

赤い椅子

米田規子

ふきのとう時間と云うは宝物
寒薔薇一輪のみのオーラかな
春めいている二階の赤い椅子
真昼間のおろして甘き春大根
詩ごころの目覚めるころか春の雪
もの書くに切羽詰まって春一番
春愁やこのごろ軽い鍋が好き
遠くにある夢のくらしと春の星
なぐさめの雨かとおもい落椿
木の芽風つぎのページは何の色